

- ールアンパバーン県一焼畑村の事例」……………高橋眞一（神戸大学）
- 「移民、地政学、境界線—現代移民の MOVEMENT  
 についての—考察—」……………北川眞也（関西学院大学・院）
- 「舞鶴市の居住地域構造—年齢別居住パターンを中心に—」  
 ……………山神達也（日本学術振興会特別研究員・立命館大学）
- 「大阪都心部の人口回復と都市再生に関する若干の考察」……………高山正樹（大阪外国語大学）
- 「1920～1935年の沖縄県の死亡力と出生力—人口動態統計  
 の補正とその結果—」……………山内昌和（国立社会保障・人口問題研究所）
- 「東京・京阪神大都市圏の居住地域構造—2000年国勢調査データを  
 用いたジオデモグラフィクス—」……………熊谷美香（大阪市立大学・院）  
 （山内昌和記）

### 第3回時空間モデリングに関する国際ワークショップ（METMA3）

2004年6月にスペインのグラナダで開催された環境過程の時空間モデリングに関する第2回スペイン・ワークショップ（METMA'04）に引き続き、2006年9月27日（水）～29日（金）にスペインのパンブローナのナバラ公立大学で第3回時空間モデリングに関する国際ワークショップ（METMA3）が開催された。第1回については2001年にスペインのベニカシムで第2回と同様のテーマで開催されたことくらいしかわからないが、第2回はすでに国際ワークショップと言っても良い内容であり、今回から名称が国際ワークショップに変わった。また、環境という言葉もタイトルに入らなくなったが、時空間モデリングが環境科学以外の自然科学だけでなく、社会科学を含む諸分野でも使われるようになってきたことからみても当然のことであろう。健康・死亡を研究する一部の人口研究者は使っているが、出生や移動の分析への応用も可能ではないかと思い、今回、勉強のために参加させていただいた。

1991年に *Statistics for Spatial Data* (Wiley) を出版したこともあってこの分野の創設者の一人となった Noel A. Cressie オハイオ州立大学教授をはじめとする専門家が20名程度招聘され、スペインを含む欧米諸国を中心に数十人が参加していた。アジア出身で欧米で活躍する研究者は若干参加していたが、アジアからの参加者は少なく、H尤度で著名なことから招聘された Youngjo Lee ソウル大学統計学科教授のほかは、“A Contextual Analysis of Allergies in Japan, Drawing on the JGSS-2002 Micro-Data and the PRTR Macro-Data” と題されたポスター報告を許された筆者のみであった。日本には時空間モデリングの専門家が東京大学の矢島美寛教授をはじめとして少なからずおられるが、11月13～15日に東大で Cressie 教授をはじめとする専門家を招聘して時空間モデリングに関する国際会議を開催されることになっていたためか、どなたも来ておられなかった。

なお、国際ワークショップの直前にはバルセロナ自治大学人口研究センターを訪問し、所長の Anna Cabré 教授と旧交を温めるとともに、Albert Esteve 助教授から Cabré 教授と同教授で実施している IPUMS-Europe（センサス個票公開国際データアーカイブのヨーロッパ版）についての話を伺ったり、2008年6月に Cabré 教授が組織委員長となってバルセロナで開催される予定のヨーロッパ人口学会大会についての話を伺うことができた。  
 （小島 宏記）